

令和4年度 学校評価報告書

学校番号(中31) 長崎市立(三川中)学校

1 教育目標

己を磨く

～心豊かでたくましく、自ら学び続け、創造性を輝かせる生徒の育成～

2 学校経営方針

日本国憲法。教育基本法等関係法令及び県・市の教育方針を踏まえ、教育の中心に生徒を据え、ふるさとに誇りを持ち、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。それで、私たちは「生徒の可能性」を信じ、生徒の持って生まれた力を引き出すため、深い愛情を持って日々教育活動に邁進したい。予測困難な未来を生きる生徒に、主体性（気づく・考える・動く）を身に付け、夢の実現に向かって努力する生徒の育成を目指す。今年度も「校訓」を拠り所にした学校経営を行い、生徒に「確かな学力」と「社会性」をPDCAサイクルの実践を通して育成する。

3 重点目標

- 「人前力」の育成・・・人前で自分の考えなどを表現できる力（人前力）の育成を目指す。
- 「主体性」の育成・・・当事者意識を持たせ、気づき—考え—動く（主体性）の育成と共に自信を持たせることを目指す。
- 「あいさつ」の徹底・・・さわやかなあいさつ（レベル5：生徒会基準）の実践を徹底する。
- 「学力向上・授業改善」の徹底・・・授業規律・主体性・授業形態の工夫などの三川スタンダードの実践を徹底する。
- 「思いやり（多様性）」の育成・・・多様性を認め合い、いじめや差別がない安心した居場所づくりを目指す。
- 「本気の経験」の実施・・・発達段階に応じた体験を実施し、成功する感動を通して主体性につなげる。
- 「協働し、働きがいのある職場」の実現・・・不祥事根絶・業務効率を通して、生徒の笑顔（働きがい）につなげる。

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	95	80	100	「己を磨く」という学校教育目標の周知徹底は図られ、昨年度より「どのよう に努力するか。」という視 点から考えての評価である と考える。今後も学校教育 目標を中心とした学校経営 を継続していきたい。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	97	96	82	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			82	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	94	94	100	おおむね良好であるが、自 分の良さという点では、自 己肯定感を高める活動の充 実を図る必要がある。特定 の生徒の頑張りが見られる ものの、自主的な活動とい う点に課題がある。生徒一 人ひとりに、自己肯定感や 達成感を感じさせる仕掛け が今後も重要であると考え る。いじめ・悩みなどの課 題に関しては、常に配慮 し、家庭と連携を図りなが ら未然防止に全力を傾け る。
		挨拶をよくしている	97	94	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)				
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	90	88	91	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	92	94	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98	99	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	94	80	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	93	86	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	82	77	39	G I G Aスクール構想の中、 授業形態の改善に教職員 は日々取り組んでいる。 「主体的な学び」が重視さ れ、自主学習を中心とした 家庭学習の在り方や学習者 支援端末の活用、AIドリル の利用など学校全体として の改善に今後も努力する。 コロナ禍ではあるが少し づつ校外活動も展開する。
	学習指導 ・教育課程	わかりやすい授業を行っている	94	85	73	
		家庭学習の習慣が身に付いている	88	73	82	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	94	76	91	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		90				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	97	97	100	昨年度同様、コロナ感染拡大防止・熱中症対策・インフルエンザ感染防止に迫られた年度であった。行動が制限され、学習者用支援端末の活用・部活動や昼休みの過ごし方・給食の在り方など常に配慮が必要であった。今後も各取組がマンネリ化しないように徹底を図る必要がある。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	78	79	82	
		体力向上に努めている	92	88	73	
	食育	食に関する教育活動を行っている	93	89	82	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	98	95	100	ICT支援員の協力を得てHP・安全安心メール・学習者支援端末等の各種通信のバランスを考え、広報活動に努めた。安全対策については、地域・関係機関との連携を図りながら今後も対応していく。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	95	91	46	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	92	86	82	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			91	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	86	86	91	放送機器・電気系統の故障が続いているが、専門業者に改善してもらおう。安全点検を徹底し早期対応を心掛ける。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			82	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○学校教育目標『己を磨く』を実現するために、本校では『人前力(自ら気付き・考え・実行(表現)する)』の育成に努めているという点は、周知徹底が図られている。

○生徒会活動を中心に、さまざまな取組を行っているが、生徒のリーダーの育成と生徒自ら組織力を高めるための方策を教師がどのように指導するか、あるいは、個に応じた役割分担をどのようにやっていくかが課題である。

○学力向上・授業改善に関しては、学習者支援端末の活用やAIドリルの利用と大きく変わろうとしている中、三川スタンダードを基準に、規律・めあてとまとめ・自主学习といった点に関してもしっかりと指導してきた。学力調査等でも学力改善向上プランの実践により、顕著な向上が見られた。生徒の個人差が出始め、発展的な学習と基礎的な学習の区分を明確にする必要が出てきた。

6 学校関係者評価

○少子化で生徒数は減少し、コロナ禍ということで多くの行動が制限されている中、多くの取組がなされているように感じる。

○部活動にも、部員数の減少等もありながら、個人競技で好成績を残している点は、素晴らしいと感じる。

○地域内での生徒の様子では、挨拶などしっかりとしている。地域行事としてのボランティア活動などでも今後は積極的に参加することを期待している。

○学校評価全体としては概ね良好ですが、保護者と教職員の評価に差がある項目については、立場の違いもあり仕方がないと感じる。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○ウィズコロナからアフターコロナに移行しようとしている中、少しずつ本来の教育活動が展開できるようになるものと考えている。しかしながら、学校教育目標を中心とした教育活動展開については変わることなく、教職員・生徒・保護者・地域一体となって取り組んでいきたい。

○時間をかけ考えた活動となるように計画性を重視していき、生徒自身ばかりでなく保護者・地域にも成果が分かるように広報活動に努めていきたい。

○生徒減少の中ではあるが、学習面・生活面の両面から個に応じた指導や支援が可能となる面がある。そのためにも生徒指導部会や特別支援部会などで組織的な指導体制になるように努めていきたい。

○地域行事にも積極的に参加できるように、生徒・保護者への告知や募集に工夫を加え、地域で活躍する中学生の姿がより多く見られるようにしていきたい。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。